「数量経済史」　担当　宝利ひとみ講師

■本授業は 2017 年 9 月 5 日（火）～8 日（金）の集中講義として開講します。

■授業の進め方
初めに経済史を研究する意味を考えたうえで、コーディネーション（資源配分）とモティベーション（動機づけ）の 2 つの視点から過去の経済現象を解説します。教科書に沿って進めますが、その中で出てくる計量分析のモデルについてはその都度基本事項を説明します。

■授業計画・課題

	授業計画	課題
第 1 回	授業ガイダンス	講義目標と講義の流れを理解する。
第 2 回	経済史を研究する意味	経済史を学ぶことの意味を理解する。
第 3 回	経済成長（1）	経済成長と経済史の関連を理解する。
第 4 回	経済成長（2）	新古典派成長理論について学ぶ。
第 5 回	経済の歴史的発展に関するさまざまな見方	経済発展に関する多様な見方を知る。
第 6 回	制度と経済発展（1）	制度と経済発展の関係を理解する。
第 7 回	制度と経済発展（2）	比較歴史制度分析の手法を知る。
第 8 回	市場経済の発展（1）	市場経済の発展の歴史を知る。
第 9 回	市場経済の発展（2）	比較歴史制度分析の応用例を知る。
第 10 回	生産組織Ⅰ：工場と企業	産業革命と経営者の役割に関する実証分析例を知る。
第 11 回	生産組織Ⅱ：奴隷制・地主制・問屋制	各種生産組織に関する実証分析例を知る。
第 12 回	金融取引と制度（1）	金融システムの発達の歴史を知る。
第 13 回	金融取引と制度（2）	「関係融資」の定義と長所・短所を実証的に理解する。
第 14 回	金融取引と制度（3）	資本市場の発達と資本取引のガバナンスについて知る。
第 15 回	ふりかえりとまとめ	講義で学んだ内容を総括できる。

■参考書
岡崎哲二（2016）『コア・テキスト経済史　増補版』新世社。